

## 75年の歴史と伝統を引き継ぎ決意を新たに

### —全連小75周年記念式典、第75回全連小研究協議会東京大会を 東京国際フォーラム他 都内各所にて開催—

全国連合小学校長会75周年記念式典が10月19日(木)、続いて第75回全国連合小学校長会研究協議会東京大会が10月19日(木)・20日(金)の2日間にわたって開催された。式典には、盛山正仁文部科学大臣をはじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、厳かかつ温かな雰囲気で開催された。研究協議会は4年ぶりの参集型フル開催となり、全国の小学校長の熱気があふれる大会となった。また、大会前日の10月18日(水)には、第245回理事会が東京會館で行なわれた。

コロナ禍でも学びを止めないという強い思いを持ち続け、各地区がバトンを受け継ぎ開催された東京大会の成果は、次年度の第76回全国連合小学校長会研究協議会徳島大会へと引き継ぐことが確認された。

## 全国連合小学校長会75周年記念式典



### 式典次第

- 1 開式の辞 全連小副会長 田中一郎
- 2 国歌斉唱
- 3 式辞 全連小会長 植村洋司
- 4 祝辞 文部科学大臣 盛山正仁様
- 5 祝辞 全国知事会会長 村井嘉浩様  
全国都道府県教育長協議会会長  
浜佳葉子様
- 5 感謝状贈呈
- 6 感謝状受領者代表謝辞 相川清美
- 7 閉式の辞 全連小副会長 片山洋一

### 全連小会長式辞(要旨)

全連小会長 植村洋司

全国連合小学校長会は、第二次世界大戦後復興高まる昭和24年10月28日、東京に37都府県の校長会代表300人が参集し結成集会が開かれ、以来75年の歴史と伝統を積み重ねつつ、輝かしい活動の足跡を残してきた。

教育は、時代が要請する課題を解決するための努力を先人から引き継ぎ、後進へと伝えていくものである。全国連合小学校長会は現在から未来へと生きる子どもたちを育成の視点から、



時代にふさわしい理想を掲げ、課題の解決に努めてきた。75年間の中で、教育の充実に関する様々な条件整備に多大な功績を残している。

今、大きな教育改革推進の時である。特に働き方改革の様々な施策が次々と展開されようとしている。この間、社会の激しい変化の中、直近では新型コロナウイルス感染症感染拡大の危機に直面し、苦難を乗り越え、昭和、平成、令和へと日本の歩みとともに輝かしい歴史と伝統を築いてきた。歴代会長様はじめ、役員の皆様、常任理事、理事の皆様、関係する全ての皆様のご支援とご尽力の賜物である。今日は、新たなスタートの日である。子どもたちと学校の未来を見据え、一歩の歩みを大切に、全国の校長先生方と力を合わせて進んで参りたい。

結びに、文部科学大臣 盛山正仁様、全国知事会会長 村井嘉浩様、全国都道府県教育長協議会会長 浜佳葉子様をはじめ、ご来賓の皆様、ご参列の皆様、関係の皆様にご心より感謝するとともに、私たちは自らの使命を自覚し、志高く挑戦し、子どもたちと学校の未来を見据えたビジョンをもち、確かな判断力と決断力で信頼にこたえる学校づくりに努めることをお誓いする。

#### 文部科学大臣祝辞（要旨）

文部科学大臣 盛山正仁様

全国連合小学校長会が創立75年を迎えられること心からお祝い申し上げます。我が国の教育は、戦後の新教育制度の発足とその後の多くの教育改革を経て、国際的に高い評価を得るに至った。これはひとえに子どもたちの健やかな育成と社会の発展に寄与してきた皆様のご尽力の賜物である。

昨今、社会が複雑化し、将来が予測困難となっている時代において、教育の果たす役割は一層重要になっている。生成AIの発展など科学技術の進化は恩恵をもたらす一方で、それらをいかに活用するか、自分の頭で考え判断することが必要になっている。そのような中、子どもたちが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を身に付けられるように、教育を進化させる必要がある。ICT環境の整備、小学校の35人学級の計画的な整備、高学年の教科担任制の推進、不登校対応の推進、幼稚園との連携の充実など、教育現場との連携及び支援に取り組んでいく。校長先生方には、75周年という節目の年、決意を新たに我が国の小学校教育のより一層の充実発



展のためにご活躍されることを祈念している。

#### 全国知事会会長祝辞（要旨）

宮城県知事 村井嘉浩様

全国連合小学校長会創立75周年を迎えますこと、心からお祝い申し上げます。

東日本大震災から12年半経過し、この間全国から多くのご支援を賜り感謝申し上げます。福島県は未だ復興の途上であるが、宮城県、岩手県はインフラの復興はほぼ完了したと言えるまでになった。

変化する社会の中、教育現場では、いじめ等の問題行動、不登校、特別な支援が必要な児童生徒や外国人児童生徒等の増加、教師不足など様々な課題に直面している。

知事会としても、現場の実情を十分に踏まえ、教職員定数を安定的に確保することや必要な財源の確保など、教職員の働き方改革の推進などについて国に提案要望を行っていく。全国連合小学校長会の皆様には、持続可能な社会の作り手の育成、日本社会のウェルビーイングの実現に向けて、更なるご活躍をご期待申し上げます。

#### 全国都道府県教育長協議会会長祝辞（要旨）

東京都教育委員会教育長 浜佳葉子様

全国連合小学校長会が創立75年を迎えるにあたり、全国都道府県教育長協議会を代表してお祝い申し上げます。

コロナ禍の中でも、全国の校長先生方が自治体を超え、学校教育の充実に尽力してくださった。予測困難な社会の中で一人一台学習者用端末の活用促進や教師の働き方改革の推進など、学校は、様々な取組が求められている。従来の発想にとらわれない柔軟な視点で、教員の力を結集させ、関係機関や外部人材の力を効果的に活用し、学校の総合力を高めることが必要である。

校長先生方には今後も優れたリーダーシップを発揮していただきたい。全国都道府県教育長協議会も教育活動の質の向上や教育課題の解決に向けて、全国連合小学校長会との連携を一層深め、学校の取組を支援していく。

#### 感謝状贈呈

○文部科学大臣 受領者471名代表 相川清美  
○全国連合小学校長会会長 受領者901名代表

#### 感謝状受領者代表謝辞

久津見幸男  
相川清美



# 第75回全国連合小学校長会研究協議会東京大会

## 大会主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る

日本人の育成を目指す小学校教育の推進

～多様な人々と協働しながら新しい価値を生み出し、持続可能な社会と

幸福な人生の創り手となる力を育む学校経営の推進～

## 開会式

- 1 開会のことば 片山洋一 大会副会長
- 2 あいさつ 植村洋司 大会会長  
平川惣一 大会実行委員長
- 3 祝辞 文部科学大臣 盛山正仁様  
(代読 文部科学省初等中等教育局長 矢野和彦様)  
東京都知事 小池百合子様  
千代田区長 樋口高顕様
- 4 来賓紹介

### 会長あいさつ (要旨)

大会会長 植村洋司

第75回全国連合小学校長会研究協議会東京大会が、4年ぶりにフルスペックの参集型で開催されることを、全国連合小学校長会を代表して心より感謝申し上げます。コロナ禍でも学びを止めないという強い思いのもと、しっかりとバトンを繋げてきていただいた。併せて、全連小創立75周年記念式典もあり、大きな節目の研究協議会となった。

さて、新型コロナウイルス感染症について、5月8日より2類の取扱いから5類へと引き下げられ、大きな転換点を迎えた。私たち校長は、感染症の感染拡大という危機的な事態に直面して以来、この3年間、感染状況の予測が極めて困難で先行き不透明な中、正解のない問いにどう立ち向かうのかを常に問われ続けてきた。

どのような状況下でも、学校は、全ての子どもたちが安心して楽しく通える魅力的な場所ではなくてはならない。そのためには、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の人々と協働的に議論を重ね、納得解を生み出す力を私たち一人一人が身に付ける必要があり、その課題解決力を身に付けた3年間とも言える。

どんな困難があっても、その本質を問い、考え、いかに実現できるのかへの知恵を出し、組織力を高め、前に進む校長でありたい。

本大会では、全連小の研究主題、研究副主題

を踏まえ、魅力ある学校づくりを推進する実践者・経営者として、新しい時代に求められる理念と指導性について究明していく。

今回の研究協議会は、各地区の校長会で練り上げられた提言をもとにした研究協議を通して、各地区、各学校の課題解決に資する計画とした。様々な視点から発言いただき、小学校教育の更なる発展に寄与し、充実した協議会になることを期待する。

結びに、本大会の開催に尽力された平川惣一大会実行委員長をはじめ、関係の皆様へ深く感謝を申し上げますとともに、会員の皆様の健勝と活躍を祈念して挨拶とする。

### 実行委員長あいさつ (要旨)

大会実行委員長 平川惣一

実に4年ぶりのフル開催と今、この東京国際フォーラムに大勢の皆様をお迎えし、秋田大会以降、校長の学びを止めないという固い決意のもと、京都、石川、島根とバトンが引き継がれ、全国の皆様に参集いただいた。

3県の校長会・事務局の皆様、3つの地区の小学校協議会の皆様に深く敬意を表する。

私たち校長は、令和の日本型学校教育の実現・充実、教員の人材確保、働き方改革の推進など、数多の課題に直面している。校長間のネットワークを活かし、情報を共有したり、知恵を出し合ったりして、こうした課題を乗り越え、日本のすべての小学校が、教職員のやる気と子どもたちの笑顔に包まれることが、ここに参集していただいたすべての皆様の願いでもある。

東京大会は、全連小75周年記念事業実行委員会と連携し、関東甲信越地区小学校長会連絡協議会の協力をいただきながら、準備を進めてきた。東京という地の利を生かし、大会の運営方法も従前の形から様々な工夫・改善を図ってきた。さらに、直接会場に来場いただけなかった全国の会員の皆様には分科会も含め、オンライン、オンデマンドでの配信を行う。



全連小75周年という節目の年に開催されるこの大会が、全連小100周年に向け、これからの小学校教育の充実・発展の契機となることを強く願っている。

最後に、東京大会の開催に当たり、ご指導とご助言をいただいた全ての関係者の皆様に厚く御礼を申し上げ、挨拶とする。

#### 文部科学大臣祝辞代読（要旨）

文部科学省初等中等教育局長 矢野和彦 様

第75回全国連合小学校長会研究協議会東京大会が盛大に開催され、全国連合小学校長会が創立されて75年の節目を迎え、記念すべき大会である。全国連合小学校長会は、昭和24年から今まで、我が国の小学校教育の充実発展に多大なる貢献をされた。改めて、これまでの歴代会長の皆様をはじめ、関係の皆様にご心から敬意を表するとともに、感謝申し上げます。



予測困難な時代であるからこそ、教育とそれを支える教師の重要性がますます高まっている。本年6月、閣議決定された教育振興基本計画では、我が国の将来を展望したとき、教育こそが社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであり、一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展に向けて、極めて重要な役割を有していると記されている。更なる働き方改革や業務改善の推進、学校運営の充実など、令和の学校教育を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について、中央教育審議会においても検討が進められている。文部科学省も、教職員定数や処遇の改善を進めるとともに、一人一台端末や地域間格差の解消によるGIGAスクール構想の更なる推進に必要な経費の計上など、予算の確保に努めている。

今後とも、皆様と連携し、一人一人の子どもたちがその可能性を最大限に増やし、主体的に社会の形成者としての資質・能力をしっかりと育んでいく教育実践が各地で展開されるよう取り組んでいくとともに、子どもたちを最前線で支える教職員をしっかりと支えていきたい。今回の大会を通じて、日々の学校教育が充実し、今後、更に発展していくことを期待している。

結びに、全国連合小学校長会のますますの発展と参会の皆様のご活躍を祈念して、挨拶とする。

#### 東京都知事祝辞（ビデオメッセージ・要旨）

東京都知事 小池百合子 様

全国からお越しの皆様が真摯な研究と実践を積み重ね、教育の充実に尽力されていることに敬意を表する。

さて、世界の様相は刻々と変化している。気候・エネルギーの危機、自然災害、人口減少など、私たちはかつてない困難に直面している。人を育む教育の在り方も、従来の発想からの転換が求められている。

一人一人の子どもたちが個性や特徴を生かし、スキルや知識をアップデートしながら、グローバル時代を生き抜いていくよう社会全体で大切に育てていかなければならない。東京都は、社会の宝である子どもの学びを支え、全ての子どもが将来の希望をもって、自ら伸び育つ都市を創りあげていく。

今回の東京大会の成果をもとに、全国の小学校の教育活動が一層充実することを期待している。力を合わせ、チルドレンファーストの社会を築いていくことを願う。

#### 千代田区長祝辞（要旨）

千代田区長 樋口高頭 様

第75回全国連合小学校長会研究協議会東京大会が盛大に開催され、全国の皆様のご来場に、地元区長として心よりお喜び申し上げます。

さて、本年5月、新型コロナウイルス感染症が5類に移行するまで感染予防対策を講じ、子どもたち一人一人に寄り添い、学びを止めない情熱と愛情をもって教育活動を進めてきた。この間、学校教育は、大きな転換期にあった。GIGAスクールの推進、令和の日本型学校教育を目指した取組など、様々な対応が教育現場で求められ、「千代田区スマートスクール」として、迅速に一人一台端末の整備を進め、休校期間にはオンラインでつなぎ、令和4年度には千代田区立全学校の11校が学校情報化優良校、本区は、「学校情報化先進地域」の認定もいただいた。

本大会での研究発表や協議の成果が、全国各学校の教育活動で、さらに生かされることを願っている。校長先生方には学校経営のリーダーとして経営手腕を存分に発揮していただき、一人一人の子どもたちが、それぞれの将来の夢や希望を育むことができる学校づくりに邁進していただきたい。

本大会の盛会と全国の校長会の一層の発展を祈念し、歓迎の挨拶とする。



## 第1日 全体会

- 1 日程説明 荒川元邦 大会実行副委員長
- 2 運営委員会構成 常任理事があたる
- 3 本部報告
- 4 大会主題・研究課題趣旨説明
- 5 大会宣言に関する提案

### 本部報告(要旨)

全連小対策部長 松原 修

5月25日に第244回理事会を行い、会長、副会長、常任理事及び監事の選出が行われ、第75回総会での提案の5つの議案が承認された。

5月26日には第75回総会・研修会では、会長の挨拶、ご来賓として、文部科学大臣官房審議官 安彦広斉様をはじめ、ご来賓より祝辞をいただいた。議事では、5つの議案がすべて承認された。午後の研修では、大臣官房審議官 安彦広斉様より、当面する初等教育の諸問題として講演、文部科学省各課長等による行政説明が行われた。

6月2日は事務担当者連絡協議会を行った。

6月16日合同部会・合同委員会を行い、午前中是对策・調査研究・広報・庶務・会計の5つの部会、午後は本格的な14の各委員会の活動が始まった。

6月30日広報担当者連絡協議会を開催し、広報活動の周知ののち、各県の広報活動への情報交換を行った。

7月11日正副会長・常任理事が、文部科学省・財務省・総務省を訪れ、各大臣・副大臣・政務官・省内各課長に対し、「小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算についての要望書」を提出した。

7月11日、被災3県小学校長会長との合同連絡会を行い、岩手県・宮城県・福島県各会長から復興の状況についての報告があり、協議・情報交換を行った。

7月12日小学校長会長連絡協議会は、7点の報告後、文部科学省初等中等教育局財務課長 村尾崇様の行政説明、「教員不足、働き方改革」に対する校長としての取組を情報交換した。

5月に中央教育審議会に諮問された「令和の日本型学校教育を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策に対する意

見書」を9月に提出した。

10月18日の第245回理事会では、今までの活動について報告を行った。

### 大会主題・研究課題趣旨説明

東京大会研究部長 瀧島和則

全国連合小学校長会は、令和2年度の京都大会から、その後の各大会の成果と課題、そして、志を引き継ぎながら、本大会の主題、副主題を設定し、研究を進めてきた。本大会での副主題の背景とは、未来が不確実で答えのない問題にどう立ち向かうのかが問われること、想定外の事態と向き合い、対応力や不透明な未来を切り拓く力にどう関与していくかが重要である。私たちは、コロナ対策を進める上で、それらを実感してきた。将来、日本や社会の担い手である子どもたちには、一人一人の多様な幸せと共に、社会全体の幸せの実現を目指してほしいと願っている。そのため、学校教育は、今まで以上に多様な他者と協働したり、より良い持続可能な社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けさせたりすることが求められている。

分科会協議での充実に向けた取組について、発表者の皆様には発表内容を厳選していただき、協議時間の確保に努めた。各分科会では、協議内容を分科会全体で可視化して共有できるよう、「テキストマイニング」を活用する。校長の果たすべき役割と指導性の究明に向け、活発で熱心な分科会を期待している。

最後に、記念講演会・シンポジウムについて、「記念講演1」では、関西学院大学 小西美穂氏からコミュニケーション術について、「記念講演2」では、多様な会社経営の経歴のあるハロルド・ジョージ・メイ氏による講演、後半はHLD Lab代表 岡田大士郎氏をコーディネーターとし、3名によるパネルディスカッション「これからの時代を担う子どもたちと関わる教師のウェルビーイング」をテーマに大会主題や大会副主題について究明する機会としたい。参加者がより一層元気になれるよう準備を進めてきた。我々教師自身の幸福、ウェルビーイングについても考える機会と本大会の充実をお願いする。

◆分科会の研究課題及び研究の視点

領域	分科会	研究課題	視 点
I 学校経営	1 経営ビジョン	創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定	①未来を切り拓く力を育む学校経営ビジョンの策定 ②学校経営ビジョンに基づく創意と工夫に満ちた学校経営の推進
	2 組織・運営	学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校運営	①学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくり ②組織を活性化させるための具体的方策の推進
	3 評価・改善	学校教育の充実を図るための評価・改善	①学校経営の組織的かつ継続的な改善に向けた学校評価の充実 ②教職員の資質・能力の向上に向けた人事評価の工夫
II 教育課程	4 知性・創造性	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進	①主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善の推進 ②知性、創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善
	5 豊かな人間性	豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進	①豊かな心を育む道德教育の推進 ②多様な人々と協働しながらよりよい社会を創る人権教育の推進
	6 健やかな体	健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進	①生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てる教育活動の推進 ②健康で安全な生活を営む実践力を育てる教育活動の推進
III 指導・育成	7 研究・研修	学校の教育力を向上させる研究・研修の推進	①学び続ける教職員を目指し、資質・能力の向上を図る研究・研修体制の充実 ②「チーム学校」の運営意識をもたせる研修の推進
	8 リーダー育成	これからの学校組織を担うリーダーの育成	①学校教育への確かな展望をもち、優れた実践力と応用力のあるミドルリーダーの育成 ②社会の変化に主体的にかかわり、自ら磨き高め続ける管理職人材の育成
IV 危機管理	9 学校安全	命を守る安全教育・防災教育の推進	①自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進 ②家庭や地域・関係機関との連携・協働を図った組織的・計画的な防災教育に関わる取組の推進
	10 危機対応	様々な危機への対応と未然防止の体制づくり	①いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり ②教職員の高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり
V 教育課題	11 社会形成能力	持続可能な社会を創造する力を育む教育活動の推進	①持続可能な社会の創造に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進 ②地域に愛着をもち、よりよい社会の創造に貢献する力を育むキャリア教育の推進
	12 自立と共生	自立と共生の実現に向けた教育活動の推進	①持続可能な社会と幸福な人生を創る力を育てる特別支援教育の推進 ②多様な人々と協働する資質・能力を育む教育の推進
	13 社会との連携・協働	家庭や地域等との連携・協働と学校段階等間の接続・連携の推進	①家庭や地域等と連携・協働を深め、持続可能な社会の実現を目指して創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進 ②成長の連続性を生かした学校段階等間の接続・連携の推進

## 第2日 全体会

### 1 研究協議のまとめ

### 2 大会宣言

佐々木香之 大会宣言文起草委員長

### 研究協議のまとめ

東京大会研究部長 瀧島和則

参集しての協議の成果は大きい。参加いただいた皆様に感謝を申し上げる。

本大会では、分科会協議の充実に向けて、「思考ツール」「テキストマイニング」を活用した。各分科会では、校長として果たすべき役割と指導性を可視化し、協議を深めることにつながった。

今回の協議において示された案をキーワード化し、校長として一層リーダーシップを発揮された内容となった。我々校長自身がウェルビーイングを実感しつつ、教育活動を進めていくことを願います。

この研究の成果と課題が、次年度の徳島大会

## 大会宣言

全国連合小学校長会は、結成以来75年にわたり、我が国の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を重ね、着実にその成果を上げてきた。

第72回大会からは、大会主題を「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」とし、各大会の特色を生かしながら、その実現に向け、組織をあげて実践的に研究を進めてきた。

近年、情報技術の急激な発展を背景とした人工知能（AI）の飛躍的な進化やグローバル化の進展などに伴い、社会の変化は加速度を増し、未来を予測することは困難である。また、少子高齢化の進展、人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下、子どもの貧困問題などに加え、世界的な平和や地球環境問題なども加わり、社会状況が子どもの成長に影響を与える問題は山積している。

このような中、将来この国や豊かな社会の担い手となる子どもたちには、一人一人が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、よりよい持続可能な社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが求められている。

そのため、小学校教育においては、全ての子どもたちの可能性を引き出すため、今まで以上に学習者主体の教育活動に転換し、新たな学びを定着させるとともに、教員の質の向上、デジタル化への対応を総合的に進める必要がある。そして、誰一人置き去りにしない教育を実現するため、個別最適な学びと、協働的な学びを実現し、「生きる力」を確実に育むことが学校教育の責務である。

また、今日的課題として、東日本大震災をはじめとする被災各地における教訓と取組を共有し、風評被害や風化防止対策を講じ、各地域の状況を踏まえながら子どもたちが健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮することが求められている。

今大会は、東京の特性を「多様性」、時代が求めるものを「創造性」と捉え、研究副主題を「多様な人々と協働しながら新しい価値を生み出し、持続可能な社会と幸福な人生の創り手となる力を育む学校経営の推進」として、その実現を目指している。

私たち校長は、人々の価値観や社会のあり様の変化を展望し、教育の基調を転換させる教育改革を進める今、小学校教育の更なる発展に全力を注ぎ、国民の期待に応えようとするものである。

ここに、第75回全国連合小学校長会研究協議会の総意に基づき、次の決意を表明しその実現を期する。

### 記

- 一、自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
- 一、多様な人々と協働しながら新しい価値を生み出し、持続可能な社会と幸福な人生の創り手となる力を育む学校経営の推進
- 一、「生きる力」の育成を目指した創意工夫ある教育課程の編成・実施・評価・改善
- 一、道徳教育を中核とし、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念の育成を重視した心の教育の一層の充実
- 一、主体的に判断・行動し、命を守る子どもを育成する防災教育の推進
- 一、学校の自主性・自律性の確立と家庭・地域等との連携・協働による教育活動の充実
- 一、安全で安心できる教育環境づくりと新たな学びの在り方の実現
- 一、校長自らの研鑽と、教職員の資質・能力の向上を図る現職教育の充実
- 一、教育の質を向上させるための「学校における働き方改革」の推進

右、宣言する。

令和5年10月19日

第75回全国連合小学校長会研究協議会東京大会

に発信され、更なる大きな成果につながっていくことを祈念して、研究協議をまとめとする。

## 文部科学省講話（要旨）

文部科学省主任視学官 宮崎活志 様

### 1 「教育振興企画計画」

・コンセプトとして、「持続可能な社会の創り手の育成」「本社会を目指したウェルビーイングの向上」である。基本的な方針として、①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて人材の育成 ②誰一人とも取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進 ③地域や家庭とともに学び、支え合う社会の実現に向けた教育の推進 ④教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 ⑤計画の実行性確保のための基盤整備・対話である。

### 2 学校における新型コロナウイルス感染症対策について

・新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の5類に移行した。それに伴い、児童生徒に対して、①医療機関への受診を進めること ②教育活動の実施にあたり適切な配慮を行うこと ③児童、生徒の間で差別、偏見等がないように適切に指導するなどの対応を行う。

### 3 学習指導要領、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（中央教育審議会答申）について

・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会」を設置（初等中等教育分科会R4.1.14）  
・本特別部会に基づく「義務教育の在り方ワーキンググループ」を設置（R5.4.26特別部会）  
・特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援に関する説明動画  
・教科書、教材、関連ソフトウェアの在り方  
・学校内外の環境整備の在り方

### 4 幼児教育と小学校教育の架け橋について

・幼保小の接続の改善において、小学校からの積極的な取組が不可欠であり、小学校の授業等を見てもらう。

### 5 GIGAスクール構想の推進について

・全国の学校での端末の活用状況について（R6年度全国学力学習状況調査結果より）  
・自治体間の解消、子どもの学びの変革、校務業務行政のDX化と必要予算化を要望する。  
・端末活用の更なる推進とネットワーク環境整備  
・デジタル教科書の導入や効果的な活用、全国学力学習状況調査のCBT化の充実一人一台端末等を円滑に活用した児童生徒への学習指

導や生徒指導の在り方の充実を図る。

・活用状況の格差や活用の基盤となるネットワーク環境への改善を図る。

### 6 小学校における35人学級の計画的な整備と高学年の教科担任制の推進について

・第5学年の学級編制の標準の引き下げや教員定数改善として、5,910人を増員する。  
・教科担任制の推進（事例集を参照）  
・定年引上げに伴う特例定数を活用した定数改善を前倒しする。

### 7 教師の資質能力の向上等について

・教員の養成・採用・研修に関する改革では、①「新たな教師の学びの姿」の実現 ②多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成 ③教職志望者の多様化等を踏まえた育成・安定的確保についてである。  
・大学・民間企業等と連携した教師人材の確保強化推進事業を推進する。  
・児童生徒等に性暴力等を行った教員に対する厳正な対応や規定・官報等の活用。

### 8 学校における働き方改革について

・働き方の改善により教師が学ぶ時間を確保し自らの授業を磨くことなどを通じて、よりよい教育を存分に行えるようにする。  
・年間授業時数を計画段階から1,086時間以上を計上した場合、見直すことを前提に点検し、指導体制が見合う計画にする。教育上必要とする学校行事を精選・重点化し、準備の簡素化・省力化を推進する。（文部科学省トリセツ「3分類の活用」）

### 9 特別支援教育について

・多様な学び場での少人数の学級編制、特別の教育課程等による適切な指導及び支援、インクルーシブ教育システムを推進する。

### 10 いじめ・不登校支援・児童虐待対応等について

・令和5年6月に「子どもの自殺対策緊急強化プラン」を策定し、SOSの出し方に関する教育を含む自殺の防止教育の更なる充実や、悩みや不安を抱える児童生徒の早期発見・対応等への受けたICTの活用、SCやSSW等の活用やSNS等を進めている。  
・誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」では、不登校児童生徒全ての学びの場を確保し、不登校児童生徒が学びたいと思った時に学べる環境を整備する。心の小さなSOSを見逃さず、チーム学校が個々で支援すること、皆が安心して学ぶ場所にすることを目指し、可能なことから順次取り組む。



## シンポジウム

- 記念講演
- パネルディスカッション

### <記念講演1> (要旨)

関西学院大学総合政策学部特別客員教授

小西美穂 氏

#### ◆演題 3秒で心をつかむコミュニケーション術

コミュニケーションについて、昨今コンプライアンスの意識が高くなっている。職場の中、保護者、生徒たち様々なコミュニケーションで言葉遣いを気にする場面が増えてきたと感じる。特に今、SNSも加わり顔が見えない不特定多数の人との向き合い方も考えると、コミュニケーションの大切さと難しさを感じる。その中で3つのポイントをお伝えする。



#### ①悩んでいる人にはプラスではなくてマイナスの声かけが大事

- ・本当に心が弱っている人に、プラスの声かけは回答しづらい。特に、上司と部下の関係性ではそれが顕著である。
- ・プラスの声かけは、相手に対して意図しない重い期待感、プレッシャーを感じさせることがある。プラスの声かけによって、相談しづらい相手と認識されることがある。

#### ②否定の王様にならない

- ・否定の言葉が多い相手とは、距離が離れやすい。特に初対面の人との会話では、心の壁につながりやすい。
- ・何気ない腕組み等の仕草でも、否定の意図に受け取られることがあり、相手にとって話しづらい相手の場合、意図とは違うメッセージに受け止められる。自分を正当化しても、受け手側が間違ったとらえ方をすることは、意思疎通が図れないことである。

#### ③現代は隠さない人が支持される時代

- ・ネット社会の時代である今、誰でも情報発信でき、隠すことができない時代である。
- ・ミス隠さず明らかにすることで、支持されることがある。ピンチがチャンスに変わる。「伝えること」と「伝わること」とは違いがあると認識することが大切である。受け手を意識することでよりよいコミュニケーションにつながる。職場のリーダーである校長先生の向き合い方一つで、学校組織がよりよい方向に向かっていく。ご清聴に感謝する。

### <記念講演2> (要旨)

アース製薬株式会社 社外取締役

ハロルド・ジョージ・メイ 氏

#### ◆演題 ~ビジネスの第一線から提言~

子どもたちが将来、いきいきと活躍するために必要なこと

日本の会社員の素晴らしさとして、「真面目」「責任感がある」「平均的に学力が高い」の3点を感じる。しかし、日本人のもつ能力を全て出し切っているかどうかは、疑問である。



世界のビジネスでは、リーダーシップ性が重要視される。今後、日本企業の雇用形態として、年功序列主義からジョブ型成果主義へと変化していく時代となる。そのような中、リーダーシップも変わってきている。「決断する」、「戦略を作る」等も大事だが、「人のモチベーションを上げること」が求められている。

人口減少社会に入り、多くの日本企業がグローバル化を求められる時代となっている。そのような中、新しいことを試みようとする起業家精神グローバルランキングを見ると、日本は残念ながら最下位である。全体的に日本人はリスクを回避する傾向が強い。

しかし、日本人はチャンスさえあれば、豊かな発想力、新しいものを生み出すクリエイティブな力を発揮できることは、歴史上から見ても明らかである。だからこそ、リスクを恐れず進むために、今、「リーダーシップ」が必要である。

「リーダーシップ」に欠かせない要素として、自分からことを起こす、意見を言う能力である「イニシアティブ」と、人にそれを伝えていく「熱意」があげられる。

校長先生が熱意をもって、学校教育の中で大きな目標を掲げ、大胆な試みをするにより、学校の風土を大きく変え、失敗を恐れない雰囲気をつくることのできる。

これからのグローバル社会を生きる子どもたちが生き生きと活躍するためには、失敗を恐れない気持ちをもつことが大切である。

さらに、校長先生は、リーダーシップをもち、教職員・子どもたちのモチベーションを高くさせることや、子どもたちに自分たちはできるという自信をもたせることで、子どもたち自身リスクを負ってでも、前面に進もうとする起業家精神を育成することのできる。

## <パネルディスカッション>

シンポジスト

小西美穂 氏

ハロルド・ジョージ・メイ 氏

コーディネーター

株式会社HLD Lab

代表取締役社長兼CEO 岡田大士郎 氏

### ◆テーマ これからの時代を担う子どもたちと 関わる教師のウェルビーイング

パネルディスカッションを通して、シンポジスト、コーディネーターから教師のウェルビーイングについて、活発な意見交換がなされた。主だったものは、以下の通りである。

#### 【コミュニケーションについて】

- ・立場が上がる、年齢を重ねるにつれて、同じような関係性、考え方をしている方との付き合い方が楽に思えることがある。このようなことを継続していると、自身の考え方が硬化していく。これは意識して解いていかなければならない。
- ・校長室をオープンしている校長先生方が多く、様々な方々が校長室を開き、新しい流れを感じた。
- ・テレビ局でも報道フロアのレイアウトを工夫している。中央に情報が集約するセンターに幹部が座る場所を置き、各部が波状になる配置である。そのような配慮で、即座に間違いに気付き、円滑な情報共有につながる。
- ・会社でも社長室を開き、いつでも来られる状態にしていたが、そのままでは誰も来ない。ある時にアポなしで入ってきた社員がちょっとした相談ごとで、一気に社内に動きや雰囲気広がった。社長が意識的に社員と関わり、そこで褒めることで人間関係が上手く構築する。
- ・意図的に違う部署同士がコミュニケーションをとる場をもたせている。素晴らしい企業であっても、部署同士の社員が100%の力で協力する企業は存在しない。しかし、できるだけ力を発揮し、様々な工夫をすることが大切である。例えば、会社の経営方針の一つについて、意図的に計画的に他部署同士に議論をさせ、フィードバックさせる。結果よりも交流が図れるプロセスに意味がある。
- ・学校の先生同士、教育以外のテーマでコミュニケーションの場をもつことが少ないため、意図的に実践していく価値はある。



- ・視野を広げるため、多分野の業種との人材交流を行った。子ども同士で同様な交流ができるとよい。
- ・情報が素早く上がる環境づくりが大切である。特に、悪い情報が素早く上がる雰囲気をつくるのが大事である。
- ・企業では、成果だけでなく、プロセス評価が必要である。

#### 【ストレスの解消について】

- ・オンとオフを分けることが大切である。自分をリセットできる時間が必要である。休日や夕方6時以降は携帯を見ないなど、心身を大切にすること。
- ・悩みを話しても大丈夫な相手をもつことが大切である。解決しなくても話していくことが大切である。

#### 【人材育成について】

- ・先生は、聖職という意識がまずベースにある。しかし、人を育てようとするほど人が育たないという事象がある。人材育成の環境づくりを作ることも大切である。
- ・人材育成について、女性の活躍をどのように支援するかという視点では、無意識の偏見になっていないかを意識する必要がある。どんな現場でも取り組む意欲をもって、女性管理職の育成を向上させていく。
- ・人材育成を進めるには、各個人のモチベーションを上げ、評価を大切にすること。360度評価法を取り入れるなどの工夫が必要である。

## 閉 会 式

- 1 あいさつ 植村洋司 大会会長  
荒川元邦 大会副実行委員長  
木屋村雅信 次期開催地(徳島県)代表
- 2 閉会のことば 田中一郎 大会副会長

# 第245回 理事会

10月18日(水) 午後1時開会

会場 東京會館「クインス」

全体進行 福島 庶務部長

## 1 開会のことば

片山 副会長

## 2 会長あいさつ

植村 会長

理事会は、歴代の理事・監事が築いた縦のつながりと今年度理事・監事の横のつながりを紡ぐ貴重な機会である。この理事会と明日明後日の東京大会にて、たくさんのお土産を持ち帰ってもらいたい。



全連小75周年記念式典は緊張感がある中にも温かい式典に、東京大会は活気あふれる研究協議会にしたいと考える。このコ

ロナ禍の3年間、各地区とも学びを止めず、しっかりとバトンを繋ぎ、この東京大会がある。次年度以降の徳島大会、福岡大会、北海道大会に繋いでほしい。

全連小活動の価値や意義については、つながり、学び、国に声を届けるの3つととらえている。小学校35人学級の実現や教員免許更新制の発展的解消など、校長会の声が国へ確実に届いている。

国の動向について、給特法の見直し・勤務実態調査の公表・中央教育審議会諮問など、スピード感をもって教育改革が動き出している。8月の中教審「緊急提言」では、できることを直ちに行うという考え方を示している。全連小は「緊急提言」に対する意見として、「教師一人当たりの授業の持ちコマ数削減＝定数改善」「処遇改善」「不登校対策・特別支援教育の充実」など、さらに教育職員の「メンタルヘルス対策」「上限指針の実効性」について9月に話をした。

政府の骨太の方針では教育に手厚い内容が盛り込まれており、今後も引き続き国に働きかけていく。

## 3 報告

(1) 会務・事業・活動の概要 福島 庶務部長

(2) 会計 橋本 会計部長

・基金管理状況 ・負担金納入状況

(3) 研究大会について

・第75回東京大会について 平川 東京都副会長  
明日からの二日間、よろしくお願ひしたい。

・第76回徳島大会について 木屋村 徳島県会長  
令和6年10月24日(木)・25日(金)、徳島市「アスティとくしま」ほかで開催。日程概要・会場等変更点、移動手段・宿泊施設の確認、参加者数について協力を依頼。

(4) 要望活動について 松原 対策部長

7月11日、令和6年度の「小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算」について、文部科学省、財務省、総務省に対し要望活動を行った。特に文部科学省には、丁寧に対応してもらった。〔要望書は本会HPに掲載〕

(5) 全連小75周年記念式典、祝賀会について

松原 式典委員長、小泉 事務局長

(6) 震災等災害被災県より

○被災3県との連絡会報告 松原 対策部長

7月11日に被災3県小学校長会長との合同連絡会を開催。震災より12年が経過した各地区の現状と課題について報告があった。今後の会合・派遣については、今まで同様継続する。

○福島原発視察・懇談会報告 田中 副会長

9月14日～15日、各県から計44名が参加。内容の濃い視察ができた。震災を風化させないよう、この内容を各自治体へ報告してほしい。

○岩手県より 佐藤 岩手県会長、前川 理事  
被災地の状況把握と組織的な支援、後世への伝承と復興教育の推進に取り組んでいる。

(7) その他

○海外教育事情視察について 小泉 事務局長

○日韓教育文化交流について 松原 対策部長

## 4 連絡・その他

○広報部より 三坂 広報部長

刊行物の活用、令和6年度価格改定、記念誌購入依頼等について

5 閉会のことば 田中 副会長